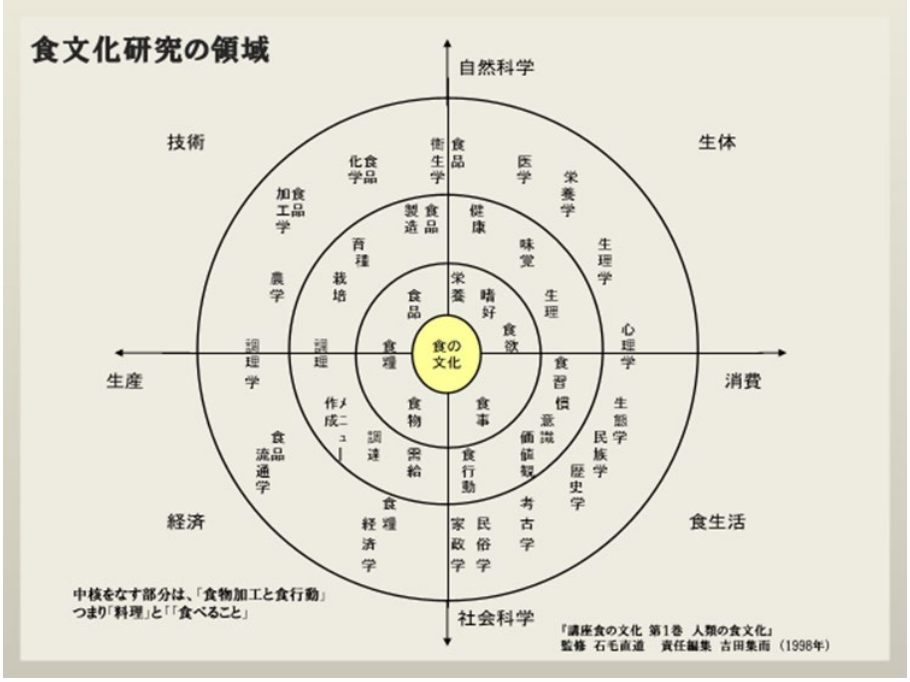
公益財団法人　味の素食の文化センター　補足資料

食の文化研究助成の対象となる研究分野について

・2016 年度から研究助成事業を開始し、毎年、30~40 名の応募者の中から 7-10 名が選考されています。2020 年度の助成研究分野を見ると、民俗学 5 件、社会学 1 件、自然科学 1 件、情報 1 件、文献収録 2 件の 計 10 件となりました。過去 5 年間の傾向としては、似通っており、フィールド系の文化人類学が半数くらい、次に歴史学が 2-3 件、その他が 1-2 件と人文学や社会科学分野の研究が中心となっています。

・食文化研究の領域は、下図に示すように学際的で、その研究分野は多岐にわたります。是非、広く、多くの研究分野より、ご応募ください。



・「食文化研究」をイメージして頂くため、以下を補足させて頂きます。

■これまでに頂いた「自然科学分野」からの申請書を見ると、目的、課題、計画に食文化的な視点での仮説が盛り込まれておらず、実験データの採取・解析のまとめに留まるものが多くなっています。計画する研究に仮説として、人間の食、文化との関わりやその影響というところまで広げた視点（食文化的な視点）を持って、計画や解析を加えて頂けると、「食文化研究」と捉えることができます。

■考古学や自然人類学などの分野からの応募が少ない状況です。
最新の分析、解析技術（X 線 CT 等の断層撮影、3 次元形状の連続断面化やデジタル化、遺伝子解析、同位体分析など）の導入が進み、これまでわからなかったことが解析され、検証できるようになり、注目されている研究分野だと思います。例えば、○○時代の人が、何をどのように料理・味付けして、どのよう食べたのか？（みんなで一つの器から食べたのか？それとも分配して食べたのか？）といったところまでの検証を計画して頂けると「食文化研究」に繋がります。

■建築分野の台所・キッチン研究をはじめ、その他の研究分野においても食文化的な視点を持って考えて頂くと「食文化研究」に繋がってくると思います。

以上